

地域を見守って28年。
人と動物との絆を何より大切にしています。

動物とのコミュニケーション
から始まります

院長の中田先生は、長野県安曇野の出身。麻布大学獣医科大学（現麻布大学）では馬術部に所属し、馬の魅力に引き込まれたそうです。「草食動物である馬は実に繊細です。微妙な感情をもつ馬と交流することで、犬や猫とのコミュニケーションも容易になりました」。

1982年、青葉区に小動物部門と大動物部門（馬）を持つ、中田動物病院・中田競走馬診療所（現馬の病院）を開院して以来、診療を通じて人と動物とのより良い関係を、見守り、支えてきました。

最新機器をそろえ、
すべての手術に対応します

平日は、11名いる獣医師のうち7名が常勤し、夜間も当直医が対応します。動物は夜間に具合が悪くなることが多いからと、開院以来24時間年中無休で診察しています。CTスキャンをはじめ



院長●中田順寿先生

めとする最新式の機器をそろえ、心臓頭や血管など、院内ですべての部位の手術が可能です。

「万全の準備を整えてから手術に入るので、予見されなかった事態が起きても対応できます」。手術はメインの執刀医のほか、補助と、麻酔担当の3人の獣医師が対応。難しい症例では、スタッフを含め総勢10名以上になることもあるとか。評判を聞き、手術を希望して訪れる方も多いそうです。

動物のためにさまざま
治療を行っています

動物が苦しむのを放っておけないと、モルヒネを使ったペインクリニックを導入して20年になります。また、鍼灸療法にも長年取り組んでいます。まずしっかりと病状と原因を見極めたうえで、レーザー、光線、中国鍼などを使い分けします。特に腰痛に効果抜群で、来院時には担ぎこまれてきた犬が、帰りは自力で歩いて帰ることも少なくな

いとか。ホームページで見たと、遠方から訪れる方もいるそうです。

地域活動に熱心な
先生

人と動物のふれ合いを広げる活動にも熱心な先生。動物病院の犬や猫たちは、養護学校や老人ホームなどを、年間100回以上も訪れているそうです。また、馬に対する理解を地域に広めるために「馬とふれあう会」を設立。同時に障害を持つ子どもたちを対象とする「障害者乗馬の活動（RDA）」の会長も務めています。忙しい仕事の合間を縫っての活動ですが、馬をはじめとする動物とのふれあいで、人びとが劇的に変わる姿を見るたびに、動物と人のかかわりには必要だという思いを新たにされているそうです。

